

平成 29 年 3 月 18 日  
創立 10 周年記念式典  
於：湯島聖堂

## これからの 10 年

本日は御多用のところお出で下さいます有り難うございます。

10 年前、ここ湯島聖堂で中斎塾フォーラム創立記念式典を行いました。その時の季刊誌「知足」創刊号を見ると、今日お出で下さった方は、10 年前にもご参加戴いている方が多いようです。御礼申し上げます。

「知足」創刊号を眺めて感じたことは、10 年前も今も共通して変わらないものがありました。それは、学びたいという意欲を持つ人、そして学び続ける人が参加をしているということです。以前、猪瀬理事長が入会希望の方に「この会は、どうやって金儲けをしているのですか？」と聞かれたことがあったそうです。中斎塾フォーラムは金儲けの場ではありません。ですからそういう目的でフォーラムに参加する人は長続きしませんで、来てもすぐにやめてしまいます。先ほど矢野顧問が「共に学んでいきましょう」と言われましたが、学びたいという意欲のある人が残ります。

塾生スピーチでは、北関東フォーラムを代表して井澤幹事、東京フォーラムを代表して池田副代表幹事が中斎塾で学んだことを体験談で話をして下さいました。お二人を選んだのは次を託す世代を育てようという目的で、意識的に代表幹事ではなく先々フォーラムで活躍してくれる人に、こういう場で話をする経験をして貰いたいとの判断からです。池田副代表のお母様は私と二松学舎で同期で、息子さんがこんなに大きくなったのかと・・・知らない間に私も結構な齢をとったのだなと思いました。

目の前で木内顧問が頷いておられますが、木内顧問は月 35 万歩の早歩きをして健康を維持しておられるそうです。年配者であればあるほど、氣をつかっておられるのですね。

本日、皆様にお土産としてお持ち帰り戴く『木内信胤語録』は、昔、木内信胤先生が話された事を書き取って 1 冊にまとめたものです。私はこの本をどうしても世間に出したいと思って、ご子息の木内顧問に承諾を戴いて復刊を致しました。

復刊までの経緯をお話しますと、最初に木内信胤先生の本を数多く出版していたプレジデント社に打診をしました。すると、出版はするけれども流通には乗せられないという返事でした。その理由は、木内信胤という名前が忘れられているから売れないということでした。良い本かどうかという基準ではなく、売れるか売れないかなのです。

そこで、お付き合いのある明德出版社に引き受けて戴きました。本日は明德出版社の小林真智子社長にお出で戴いています。復刊にあたって、苦肉の策として「隠れた巨人 木内信胤 — 岩崎彌太郎の孫・妻は福沢諭吉の孫」という帯をつけました。更に、書店の本棚に並んでいる本の中から手に取ってもらえるようにと、背表紙に「岩崎彌太郎・福沢諭吉、不思議な関係」と書き入れました。

ビートたけしのお兄さんは学者で専門的な學術書を沢山出しているけれども、いっこうに売れない。そこで出版社が考えて「なぜか、たけしの兄です」というタイトルにしたところ、學術書も爆発的に売れたという話を聞いたことがあります。残念ながら、今の世の中のレベルはこの程度なのです。

ちなみに、明德出版社から市川市に木内ギャラリーという施設があると教えて戴いて、昨日行って参りました。木内信胤先生のお父様の木内重四郎氏が建てられた立派な洋館で、市川市の財産として大切に保存されていると感じました。既に明德出版の方が『木内信胤語録』を見本として一冊置かせて貰っていて、欲しい方は明德出版社へ連絡して戴くようになっていました。幸いにしてポツリポツリ売れているようですので、ひと安心しております。木内信胤先生の珠玉の言葉が詰まった本です。是非、多くの方に読んで戴きたいと思っています。

今日は、懐かしい方が沢山来て下さいました。お会いするのを楽しみにしていた御一人、創立当初に東京フォーラムにおられ、退会された方で田中さんとおっしゃいます。田中さんが入会した動機を伺ったことがあります、「嘘をつかない」ということを標榜して集まっている会などあるはずがない。どういう人間が集まっているか見てみよう・・・という理由だったそうです。

おかげさまで中斎塾フォーラムでは、「嘘をつかない」をずっと言い続けています。「嘘をつかない」を前提にしていると、学ぼうという意欲も湧いてくるようです。

もう御一方、誌友会員の須藤さんの御顔が見えました。二松学舎大学OB会で松苓会という組織があります。その群馬県支部の新年会で、今年は須藤さんに講演をして戴きました。

論語に「吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳従う。七十にして心の欲するところに従えども矩を喩えず」とあります。そこまでは皆さんご存知でしょうが、その先がありません。須藤さんは、ご自分が主宰しておられる論語の会の方から「八十代、九十代はどうすればよいか」と質問をさ

れて、ご自分で調べたところ、良い答えが見つかったと教えてくれました。荘子の「将らず迎えず応じて蔵せず」という言葉で、昨日のことはさらりと忘れてしまいなさい。明日のことは取り越し苦労をしない。目の前のことを淡々と自然体で対応しなさい・・・これを八十代、九十代の心構えにするとよいと思う、と言われました。

奇しくも斯文会の前理事長宇野精一先生も同じ質問をされた時、「私の父（宇野哲人先生）が、八十代、九十代は将らず迎えず応じて蔵せずを心構えにしなさいと言っていました」と答えられたそうです。また、諸橋轍次先生も同じことを言っておられたようです。真剣に学ぶ人は皆、だいたいどこかで一緒になってくるのだと感じます。

本日は多くの方にお出で戴きましたので、お顔を拝見して話が飛びまして、前段が長くなりました。では、レジメに従ってお話を致します。

### **中斎塾フォーラムの基本理念・判断基準**

中斎塾フォーラムの基本理念は「知足」です。がつつしないで、ほどほどで満足する。そして判断基準としては、本質・大局・歴史という判断の三原則を拠り所にして学んでいます。

私は現在、群馬経済同友会の首都機能バックアップ検討部会のメンバーでございまして、「首都直下型地震が発生した時、群馬県はどういう対応ができるか」というテーマで研究し、分担して提言をまとめ報告書を作成しました。私は、首都直下型地震が起きた時には東京は壊滅状態になるだろうから、初動の24時間・72時間で群馬県はどのような動きをするべきか、県の危機管理や自衛隊の動きについて確認をとりながら文章を書かせて戴きました。

東日本大震災（3.11）の時は、遠野市が後方支援拠点として重要な役割を果たしました。各地から支援物資を集めて被災者に配る、遠野市はいち早く動いて補給基地になりました。遠野市の市長さんにお会いしてお聞きしたのですが、市長になった時に何をすべきか考えて遠野市の歴史を調べたところ、大津波の際、遠野市は常に後方支援を続けてきていたことが分かり、市長の重要な仕事はこれだと決めて、大津波の時にどう対処するか青写真を作って日本政府にかけ合ったそうです。そうしましたら、遠野市の出る幕ではないと一蹴されてしまった。そこで近隣の市町村と相談して広域連合体を作り、専門家の知恵を借りようと自衛隊に行ったところ、1億円の予算が使えることになった。結果として、自衛隊中心で1万人の総合災害訓練を実施し、2回目の訓練をした直後に、3.11が起きたのだそうです。

今、首都直下型地震の起きる危険性が非常に高まっています。そういう時にどうするか、

「足るを知る」という理念があれば、それに照らし合わせて動くべきだと思います。

中斎塾フォーラムでは「知足」を基本知念に据えて、本質・大局・歴史を学ぶことによって判断基準を身につけ、木内信胤先生の言われた総合的直観力の域を目指して日々学んでいます。

## 幸せ

### 1、人さまの役に立っている実感

先日、フォーラムの会員の清水ドクターが司会をされた健康医療開発機構のシンポジウムに行きました。「認知症と向き合う」というテーマで、様々な観点から報告・提案がされましたが、中でも経済産業省の課長さんが話されたことが印象に残りました。70歳を過ぎると、女性は緩やかに体力が落ちてくるけれども、男性はつるべ落としでガクン、ガクンと落ちる。これはご存知の人もおられるでしょう。ところが、変わった人種が出てきたというのです。中小企業会長型とって、体力がずっと横ばいなのだそうです。中小企業会長型の人全体の一割強いるということですが、皆さんの周りを見渡して如何でしょうか・・・。前列にお座りの大野参与は、中小企業会長型ですね。

更に、今井理事から先日戴いた本『トランプ後の世界』の著者の白岩禮三さんは、中小企業会長型の上を行っていました。白岩先生は「60歳を過ぎたら体力を増強すべきである。そうすると氣力も創造力も、智恵もずっと上昇する」と言っておられ、現在84歳で、体力・氣力・知識すべて上がりっぱなしなのだそうです。

いずれにしても氣力・体力を上げる一番の原動力は、人さまの役に立っているという実感があるかどうかです。人さまの役に立っているという実感がある方は、ずっと若いようです。ちなみに、人さまの役に立っているかどうかは、有難うと言われているかです。周りから有難うと言われるのは、人さまの役に立っているからです。

### 2、そこそこの収入

今、政府は年収200万円を一つのボーダーラインとして出しているようです。貧困という言葉が大分飛び交っています。今の世の中、そこそこの収入を持っていないと衣食住の確保が難しいと思います。

おかしなことに日本は、働けば働くほど罰金のようにどんどん税金をとられる仕組みになっています。例えば年金の場合、月額38万円以上の収入があると年金がカットされます。お役所に関係のある方や政治に関係のある方は、是非、働いたら働いただけの収入が得ら

れるような社会に変えていって欲しいと思います。私もそういう方向で動こうと思っておりますし、動いているつもりです。

ですから、そこそこの収入は確保しなければいけない状況です。ただ、通貨で世の中が回って行く仕組みはもう終わりですから、その先を見据えて動かなければならないと思っています。

### **3、それなりの氣力・体力**

私ごとで申しますと、ちょうど一年前に体力を上げようと思い毎日自転車に 30 分乗ろうと決めて、続けました。そうしたらかなり脚の筋肉に弾力が出て、競輪選手の脚に段々と近づいてゆくような実感を持ちました。確かに、努力をすると筋肉はつきますね。ちなみにスクワットを毎日 500 回していましたが、この前、体調がとても良いので、どんどんペースを上げ新記録に挑戦したら 1000 回を超えました。自転車を一年間続けた成果です。

最近実践していることは、フォーラムでも何度か話しておりますが、元京都大学教授の大島先生が言われた「か・き・く・け・こ」です。「か」は日々感動すること。「き」は何でも興味を持つこと。「く」は工夫をする。「け」は健康でいること。「こ」は、最初に私が聞いた時は、恋人を持つことでした。感動し興味を持ち工夫する自分、そして健康を維持したなら、最後は恋人を持ちなさい・・・そうお話をすると、「さすがに恋人は難しい。お金も要るし、相手がいなければならない」という意見があって、恋心を持つようにお話をしています。幸せは、この「か・き・く・け・こ」を実践すると、意外と身近なところで手に入りやすいと感じています。

## **氣になる事**

### **1、トランプ大統領**

トランプ大統領は「アメリカファースト」と言いました。先日、矢野顧問の会社にお邪魔した際、トランプ大統領の就任演説のコピーを戴きました。一番氣になったのは、演説の最後「ありがとう。あなた方に神のご加護を。米国に神のご加護を。ありがとう。米国に神のご加護を。」という部分です。「神のご加護を」という言葉を日本人は言いませんね。やはり国が違うなあ実感して、それからよく中身を読み直しをしています。

現時点でトランプさんの書いたものを読んだり、話したことを聞きますと、何が「アメリカファースト」なのでしょう。私が思うに、「トランプファースト」ではないかと感じます。トランプさんとトランプ一族にとって好かれと思うことはどんどんやる、ついでに

アメリカにとって好いこともやる、と私には捉えられました。ですから「トランプファースト」という視点で、アメリカの今後の進み方を見たいと思っています。

## 2、安倍首相

アベノミクスをどんどん進めるのは良いことだと思いますが、色々と問題があると思います。中でも一番気になるのが、二月七日に北方領土返還要求全国大会に参加した時に感じたことです。北方領土全国大会には毎年、必ず総理大臣が出席します。私は中曽根首相の時から行っていますが、その頃はセキュリティが大変薄く感じられました。それが細川首相の時から、明らかに命を狙われているという想定のもとにセキュリティが変わり、だんだん強化されてきたのですが、今回は非常に緩んでいました。今まで総理大臣の傍らにはS Pの人が防弾の鞆を持って立っていましたが、今回は何も持っていませんでした。安倍首相は、自分はもう狙われることはないと思っているのではないのでしょうか。上が気が緩むと、下にもそれが伝わります。いずれにしても危機感が薄れていると感じました。

安倍首相はアメリカ大統領選の際、トランプさんが勝った場合を想定して手を打っていたから一番に会談できたという報道があります。それ自体は評価されることだと思います。しかし今、安倍首相はどこかで足をすくわれかねない状況になっています。そういう危険性を感じます。あちこちでばらまきお金はどこから出ているのか、気になります。

## 3、習近平

習近平さんは自身の皇帝化を進めているとフォーラムでもお話していますが、北朝鮮のコントロールは出来ないのでしょうか？ この間も北朝鮮が弾道ミサイルを4発発射しました。間違いなくグアムと日本の岩国、佐世保を狙っています。私は、いつ何時日本にミサイルが飛んでくるか分からないと申し上げていますが、狙ったところに落とす力を北朝鮮は持ったと感じます。ですから周辺に住んでいる方は、なかなか難しいでしょうが転居した方がよいと思います。搭載するものによりますが、もしミサイルが飛んで来たなら相当の死傷者が出ます。

いずれにしても日本は周りの国々と緊張関係に入ってきたのだと、トランプ大統領、安倍首相、習近平主席の動きを見ていて感じます。先ほど矢野顧問が戦国時代に入ったと言われましたが、それと同じような感覚で、数年前に大阪で開催された論語寺子屋サミットで伊與田覚先生が言われたことが印象に残っています。伊與田先生は論語普及会の学監をしておられ、昨年 101 歳で亡くなりました。先生は戦争を何度も体験しておられましたが、その先生が「今、第三次世界大戦が始まりつつあることを実感しています」と言われ

ました。

今、大きな戦争が始まりつつあるという危険性を、世の中のリーダーの先生方が言っておられます。どこで引き金が引かれるか分からない状況だと感じます。

#### **4、日本経済の破綻**

#### **5、大規模自然災害**

これらを考えますと、日本人の心の拠り所は、やはり天皇陛下の存在だと最近つくづく感じます。天皇陛下がおられるから、日本の国はいっぺんに真逆さまに落ちていないのだろうと思います。

日本経済が破綻をしたら何が起きるか、具体的に申しますと、預金凍結・新円発行・物資不足等々が表面化するでしょう。

人為災害・自然災害については、伝染病・鳥の新型インフルエンザ強毒性が発生すると思っています。また大地震・大津波も起きるし、原発の破壊も出てくると思います。そうなった時には、自給自足の体制が必要になります。なるべく遠くの友人・知人と連絡を取り合って、相互協定のような約束を個人的にされることをお勧めします。

#### **6、健康寿命**

先ほど申しました健康医療開発機構のシンポジウムでお聞きした話ですが、経産省の課長さん曰く、人間の身体を構成している細胞は、120年間細胞分裂をして生き続けられるそうです。ですから120歳より前に亡くなる人は、寿命を全うしていません。真つ当な人生を送っていれば、120歳までは生き続けられるというわけです。嬉しい話ですね。

#### **これからの日本の10年**

これからの10年を考える時、やはり干支から眺めます。

今年、2017年は丁酉（ていゆう・ひのととり）です。変革を切望する機運が高まって、若干変わる。

2018年は戌戌（ぼじゅつ・つちのえいぬ）。紛糾して、内憂外患がさらに酷くなるが、まだ何とかなる。

そういう状況が続いて、2020年にオリンピックが開催されれば、日本の国の中はかなり変わるでしょう。2020年の干支は庚子（こうし・かのえね）ですから、悪い連中（ネズミ）が一気に増えておかしくなります。

そうすると翌年 2021 年は景気が一挙に悪くなる。干支からみると、辛丑（しんちゅう・かのとうし）は日本全体が辛い目に遭う年です。東日本大震災の年は辛卯（しんぼう・かのとう）でした。私はその年の年賀状に、「日本の国全体がとても辛い目に遭い大勢の人々が亡くなられる」と書いて出しました。問題が発生するのは 12 月頃だろうと思って書きましたら、3 月に大勢の人が亡くなってしまいました。2021 年は国自体が辛い目に遭う。ただし原則がはっきりしているので、その通り進めることが出来るであろうと思います。

注目すべきは 2023 年の癸卯（きぼう・みずのとう）です。草が枯れ、葉が落ちて、物事の筋道だけがはっきり見えてくる。基準がはっきりするので、思い切って前に進もうとするものが出てくると考えます。

このように干支学で 5 年、10 年、15 年くらいを調べてみました。そして 2 年毎に全部チェックをし直していきます。

5 年目、10 年目の節目を申しますと、2021 年（5 年目）は不景気でどうにもならない。ただ右肩上がりで成長する、右肩上がりで利益を出すという考え方はおしまいです。右肩下がりでも十分食べていけるような国づくり、会社づくり、組織づくりが求められます。

10 年目、2026 年は丙午（へいご・ひのえうま）の年です。丙午生まれの女性は気性が荒く、嫁の貰い手がないという迷信があるくらい丙午のイメージはよろしくないのですが、実際は違います。10 年後の丙午は、日本がどんどん良くなるだろうという氣運が極端に高まる、非常に楽しみな年回りになります。

### **中斎塾フォーラムの 10 年**

先ほど理事会・評議員会を致しまして、猪瀬理事長の再任が決まりました。一期 2 年で、そろそろ理事長以下、新しい体制を創り出すということで、次世代検討委員会を発足させました。出来るだけ新しい世代が集まって次の理事長をつくり、その理事長を支える若い人たちを入れようという目的で組織づくりを担っていきます。

そして個人的には、中斎塾フォーラムは健康で長寿の方ばかりが集まっていると思われる会でありたいし、良いと思うことは即取り入れる会でありたいと思っています。当然、学ぼうという意欲がなくなった方は、自ら退会をして戴きたいと思っています。

10 年前、中斎塾フォーラムがスタートした時、福島幹事が「100 年先、200 年先を見据えて活動する」と宣誓致しました。今後は有言実行で更に学びを深め、「知足のこころ」を提言し活動する団体にしていきたいと考えております。

本日はまことに有難うございました。